

第6回セミナーインバウンド対策セミナー 「インバウンドって何?!」



～目指せ! 日本一ゆる～い産学官金協同体～(略称:ゆる協)

＜開催報告＞

福島商工会議所、中小機構東北本部では、80名の方にご参加いただきセミナーを開催いたしました。



※参加者80名! 事業者・行政・支援機関・留学生等の多様な参加者。
新たな発見・気づき生まれる期待!

●日時:平成31年3月12日(火)

●会場:コラッセふくしま4階 多目的ホール

【プログラム】

13:30 主催者挨拶 中小機構東北 経営支援部長 中島康明

13:40 第1部 <識る>「インバウンドって何?!」セミナー

講師:株式会社JTB総合研究所 コンサルティング事業部
コンサルティング第一部 主任研究員 加藤 強氏



※ワールドカフェ形式にて、留学生9名と事業者等30名にて交流。

15:00 第2部 <関わる><始める>ワールドカフェ形式

案内人:中小機構東北経営支援部長 中島康明

第1部<識る>「インバウンドって何?!」セミナー

第1部 質疑応答



加藤強氏による講演

インバウンドの現状について

・現状について、『明日の日本を支える観光ビジョン』の概要、訪日外国人旅行者数の推移、国別シェア等の各種資料・データを用い説明。
・現在、人気な内容として「日本らしさ」がフォーカスされており、質的な変化が現れてきていると説明。具体的には、旅行者目線から生活者目線への移行、周遊型から滞在型への移行などに変化。

インバウンドによる経済効果について

・訪日外国人旅行者8.1人分の消費は定住人口1人分の消費に相当。
宿泊業や旅行関係業種だけでなく、コンビニエンスストア、ドラッグストア等の一般小売業など幅広い業種に対し、波及効果があることを説明。
・一方で、インターネット環境、キャッシュレス決済といった情報・決済面、二次交通(拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通手段)の整備といった交通面、多言語表示といった言語面などの課題解決が必要。

まとめ

・インバウンドへの対応として、「ほんものの文化」(日本らしさ)を各地域でブラッシュアップし、伝えていくことが重要。その上で、どんな人に響くかを見据え、提供できる価値とコンテンツを創りあげることが必要。

Q:過疎地域におけるインバウンド対策についてはどうすれば良いか?

A:ある地域の事例では、住民、行政が一丸となり受入れに向けた推進をすることやターゲットのニーズをつかむことが重要。

Q:訪日外国人旅行者の年齢構成比、男女比率はどのような状況か。

A:ある地域の調査事例では、年齢層としては20~40代の比較的若い層が来ていること、男女比については1:1程度で特にどちらが多いということはない。

Q:小規模な旅館におけるインバウンドの取込みはどのように行えば良いか。

A:HP多言語化やウェブツールを活用し、外国語での情報発信を積極的に行うことが肝。

第2部<関わる><始める>ワールドカフェ形式



※ワールドカフェ形式にて、外国人(留学生)の情報・決済面、交通面、言語面などについて生の声を聞く!
(1グループに留学生1、2名・事業者等5名にて計6グループで議論)

※「福島から考える東北の魅力～もてなしの心～」をテーマに、議論。

※各グループにて議論中のキーワードを書きました。

